



# 上田市議会議員 佐藤のりゆき

佐藤 論 征

## 後援会報

### 12月定例会報告

2015年12月定例会号

佐藤のりゆき後援会  
発行責任者 森山 和  
上田市真田町長 3576-1  
TEL 0268-72-5666  
FAX 0268-72-2622

#### 菅平地区振興施設整備

開設時期 2019年(平成31年)4月(予定)

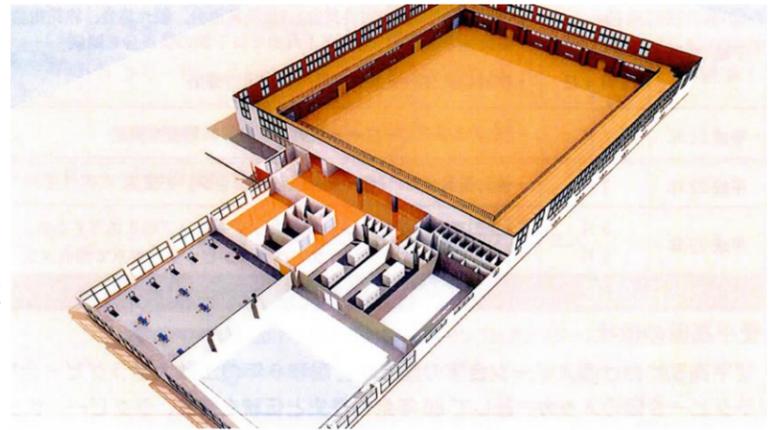
事業費10億円

平成21年7月に2019年ラグビーワールドカップの日本開催が決定し、平成25年9月には2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定するなど国内におけるラグビーをはじめとした各スポーツを取り巻く環境は劇的に変化しています。これまで「上田市にラグビーワールドカップキャンプ地を誘致する会」を中心にキャンプ地誘致に向けた活動が進められており、上田市についてもこの機会をスポーツ合宿地として名高い「菅平高原」を世界に情報発信する大きなチャンスと捉え、ラグビーワールドカップやオリンピック等のキャンプ地誘致を可能となる振興施設整備について、地元要望を踏まえ検討を重ねておりました。この程、方向性が明確となり、12月定例議会初日日程終了後の全員協議会において、詳細について説明がなされました。

#### 利用形態

- トップアスリートを迎えることのできる屋内運動施設
- 広く地域住民、市民が利用できる運動施設、講演会及び健康増進施設としての活用
- 観光客がトップアスリートの練習風景を見たり、ふれあえる施設
- 各種競技(ラグビー、サッカー、スキー、スノーボード等)大会の開閉会式場
- スポーツと「健康改善」「健康促進」事業を取り入れたスポーツ・セラピーの活動拠点としての活用
- 災害時の防災拠点施設(地域、宿泊客、観光客の避難場所)としての活用

トップシーズンは競技者向けの施設として活用し、シーズンオフの時期は市民向けの運動施設として活用。一般的な体育施設とは違い地域振興施設として整備を進めます。



菅平地区振興施設(イメージ図)

- 建設場所** 菅平高原グリーンフィールド  
(菅平高原国際リゾートセンター西側グラウンド)
- 事業費** 概ね10億円程度
- 開設時期** 2019年(平成31年)4月(予定)
- 施設概要**
  - 屋内運動場(バスケットボールコート1面規模)
  - ウェイトトレーニング用ジム・クールダウンルーム  
(多様化するトレーニングに対応)
  - 事務室、小会議室、ロッカー室(更衣室)、トイレ等

#### 上田市役所本庁舎・南庁舎耐震補強

耐震補強工事費 36億6,900万円

#### 上田市役所本庁舎・南庁舎 耐震診断の状況

上田市役所の本庁舎と南庁舎については平成20年度に耐震診断が実施されました。本庁舎については、災害時の指導、情報伝達等の拠点となる施設として位置づけられており、構造耐震指標値(Is値)として0.90以上が基準とされているのに対し、高層棟(地下2階、地上6階)では0.25~0.75、低層棟(地上2階)では0.87~1.29といずれも耐震補強が必要とされています。南庁舎(地下1階、地上6階)については、一般的な庁舎と位置づけられており、構造耐震指標値(Is値)として0.75以上が基準とされているのに対し、0.47~1.17とこちらも基準を下回り耐震補強が必要とされています。上田市ではこれまで学校などを中心に耐震化を進めてまいりましたが、市内の学校などの施設については耐震化の目途がついたことから上田市役所本庁舎・南庁舎の耐震化について、検討にはいることとなりました。

#### 耐震補強工事基本設計

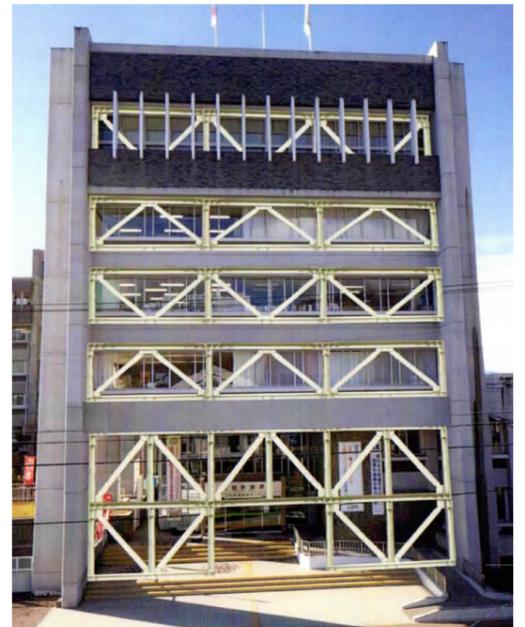
耐震補強工事基本設計についてこのほどまとめ、12月定例議会初日日程終了後の全員協議会において報告されました。耐震補強工事に要する費用は、当初市では、24億円程度と見込んでおりましたが、改正法令に適合させる改修点が発生したことや、付帯工事の影響などから、36億6,900万円が必要であることが明らかとなりました。

庁舎の外観については右の写真の通り補強のための鉄骨がいたるところに設置されるため、外観が損なわれることはもとより、出入り口や、出入り口スロープにも影響を及ぼします。庁舎内部についても補強のための鉄骨がむき出しとなり支障をきたす箇所が多数発生するうえ、窓などの開口部についても大幅に壁化されます。

#### 耐震補強工事の主な問題点

- ・ 工事費が36億6,900万円と高額になる。
- ・ 耐震補強工事を実施しても庁舎建物の耐用年数は伸びない。10年から15年後に建て替えなどの検討が必要となる。
- ・ 鉄骨などで補強されるため、施設利用に支障をきたし、市民利用にも支障をきたす。
- ・ 給排水、通信、照明などの設備も老朽化しているため、今後設備改修に多額の改修費用が発生する。
- ・ 耐震補強工事については、通常業務を行いながらの工事となるため、工事に5年間を必要とし、その間の庁舎利用に不便を生じる。

このような状況をふまえ、耐震補強工事を進めるか庁内で検討することとなりました。



耐震補強工事を実施した場合の上田市役所完成予想図(正面玄関)

正面玄関は鉄骨でおおわれてしまうスロープにも鉄骨がかかる



上田市役所内部の完成予想図  
庁舎内部では鉄骨がむき出しとなる

佐藤のりゆきホームページ

<http://www.noriyuki-sato.com>

上田市議会議員 佐藤のりゆき 検索

スマートフォンからもご覧いただけます

## 12 月定例議会一般質問

12 月定例会の一般質問において、運賃低減バスと健康幸せプロジェクトの質問をいたしました

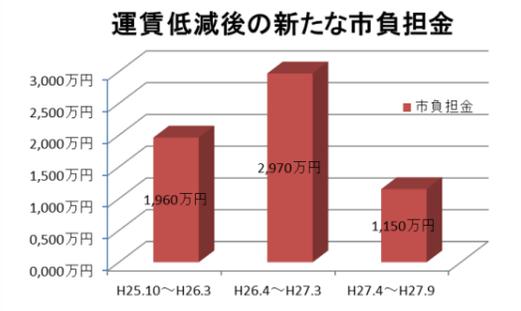
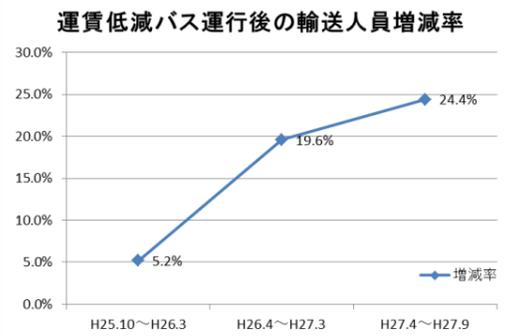
**運賃低減バス** 運賃低減バスは、上田市内を運行する 17 の路線バスを対象に大幅に運賃を下げ、平成 25 年 10 月 1 日から 3 年間を実証期間として運行しています。これは、上田市が路線バスを保護する目的で、上田市から運行業者へ赤字分を補てんするための補助金を支出しています。運賃低減バス実証運行前は利用者が年々減り、市の負担金もそれに伴い増大する傾向にありました。そこで、利用者の少ないバスを運行するために補助金を支出するのではなく、利用者の多いバスに補助金を支出したほうが良いと発想を転換し、大幅に運賃を下げ利用者増を目論んだものです。運賃低減バス運行前の利用者 1.5 倍を目標に様々な利用者増に向けた取り組みが行われてきております。実証期間が残り 10 か月となるなか、実証運行終了後の運行方針などについてもそろそろ明確にしなければならない時期となっていることから、質問にたちました。

問 運賃低減バス実証運行前に対し、輸送人員 1.5 倍を目標としているが目標に対する達成状況はどうか。  
 答 実証運行を開始した平成 25 年 10 月から平成 26 年 3 月までの 6 か月間の輸送人員の状況は、実証運行前に比べ 5.2% の増、平成 26 年度の 1 年間では 19.6% の増、平成 27 年度 4 月から 9 月までの上半期の輸送人員は 24.4% の増。年々増加してきている状況。路線別では、実証運行前比、室賀線 154.3%、鹿教湯線が 59.1%、傍陽線が 39.8% の増となっているなど、17 路線のうち 14 路線において輸送人員が増加している状況。

問 実証運行後、新たな市の負担金額としてどのくらいの負担金額がかかり、どのように推移しているか。  
 答 平成 25 年度下半期で 1,960 万円余、26 年度は 1 年間で 2,970 万円余、27 年度は上半期まで 1,150 万円余となっており、輸送人員の増加により負担金額は減ってきている状況。

問 上田市としてこの支出の状況についてどのように考えているか。  
 答 目標の輸送人員に至っていないことから新たな負担金が生じているが、従来減少傾向であった輸送人員が年々増加しており運賃低減の効果があつたと考える。特に通勤、通学時間帯利用者の増加、高校生の定期券利用者増加など、地域の皆様の理解、協力もあり輸送人員の増加につながっている。引き続き積極的な利用促進により輸送人員の確保を図り、市の支出軽減に努める。

問 実証運行期間が残り 10 か月を切り、実証運行期間終了後の運行方針について、そろそろ実証運行の検証を行った上、方向づけていかなければならない時期に来ている。特にバス利用者はもちろん、これから高校などへ進学するお子さんを持つ親御さんなど多くの市民の皆さんの関心が高い。そこで、実証運行期間終了後の運行に向けて、実証運行期間の検証をどのように行い、いつごろ実証運行期間後の運行方針を決定していくのか。  
 答 実証運行期間中の乗降調査による輸送人員の推移のほか、利用者アンケートにより意向調査や利便性の向上等を確認するとともに、施策導入による事業効果として掲げている高校生の通学費負担の軽減の効果等さまざまな観点で検証を行い、本年度末をめどに運賃低減バスの今後の運行方針を示す。



**健康幸せプロジェクト** 上田市では、市民の皆さんが健康づくりについて、より関心を深め、生活習慣病の発症を抑えることを目的とした事業の展開を図り、人口減少、超高齢化等の社会構造を踏まえた地域コミュニティの形成の視点を取り入れた事業を推進し、各保険者と連携し、より多くの市民の皆さんの健康データを分析・活用した効果的・効率的事業の展開を図ることを目指した「健康幸せづくりプロジェクト事業」を実施しています。

問 現在実施されている健康づくりチャレンジポイント制度は、各種健診等を受診することや、健康づくりに関する講座やイベントに参加することでポイントを獲得し、そのポイントは公共施設無料利用券との交換や民間スポーツ施設の特典を受けられる他に、子どもたちの健康のために、集めたポイントを市に提供し、ポイント数に還元した金額でスポーツ用品を購入し、市内の各学校などに配布することができることとしていますが、このポイントを市に提供し各学校などに配布する制度について、ポイント提供先をポイント提供者の希望によりポイントの提供先を指定できる制度とできないか。例えば、おじいちゃん、おばあちゃんがご自分のお孫さんがいる学校などにポイントを提供することができれば、目的意識が生まれ、より健康づくりチャレンジポイント制度が活性化されると考えるがどうか。  
 答 PTA の役員の方がパンフレットをとりに来られるケースもあり、若い世代の方が子供たちのために地域全体でポイント制度に参加する動きも始めている。こうしたことから、ポイント還元先を提供していただいた方の希望する学校等に対して行えるようにすることについて、提供者の意向に沿う形で制度を運用していきたい。また、地域ぐるみで取り組んでいただけるよう、PTA に対しても引き続き周知を図っていく。

問 健幸クラウドシステムの導入が予定されているが、システムの概要、導入スケジュール、導入メリットは。  
 答 健幸クラウドシステムは、国民健康保険や全国健康保険協会の健診データ及び医療データを一元化することで、より多くの市民の健康データを科学的に分析するとともに、健康づくりに関する市民アンケートなども加えて、都市環境や地域コミュニティの活性度なども含めた総合的な分析評価を行うもの。より多くの市民の健康度を総合的に把握し、科学的根拠に基づいた健康施策を展開する必要があることから、今回新たなシステムを導入する。導入スケジュールは今年度と来年度の 2 カ年にわたり取り組み早急に着手をしていく。分析結果の活用と市民へのメリットについては、市民に対して具体的で説得力のある説明が行え、生活習慣病や医療費、介護給付費の将来予測が可能となることから、これらを踏まえた効果的な施策の事業展開を図ることにより、市民にとってはより健康度の向上に結びつくというメリットがある。

**実証運行の「運賃低減バス」**  
**輸送人員の増加続く**  
 上田市「本年度末にも方向性」

上田市の金子義幸・政策企画部長は 30 日の市議会 12 月定例会一般質問で、2013 年 10 月に市内で実証運行を始めた「運賃低減バス」の利用状況を説明した。12 年度の同期と比較した輸送人員は、13 年度下半期（10～3 月）が 5.2% 増、14 年度上半期（4～9 月）が 24.4% 増とした。運賃低減に伴う赤字分を穴埋めする市負担金は、13 年度下半期 1,960 万円余、14 年度上半期 2,970 万円余、15 年度上半期 1,150 万円余となった。金子部長は、輸送人員の増加で市負担額は減少傾向としたが、「引き続き利用促進を図り、市の支出軽減に努める」と答弁。実証運行終了後の方向性については「本年度末をめどに示したい」とした。

一般質問の内容が信濃毎日新聞に掲載

**みなさんの健康づくりを応援します!**  
**笑顔あふれる**  
**上田市健康づくりチャレンジポイント制度**

6 月 1 日の広報うえだとあわせて制度説明パンフレットが全戸配布されています。申し込みハガキが付いています。

各種健診等を受診することや、健康づくりに関する講座やイベントに参加することでポイントを獲得。ポイントは公共施設無料利用券などと交換できるほか、学校などへ寄付することもできます。

健康づくりでポイントもゲットしよう!

- 1 添付のハガキで参加申込みをしよう!
- 2 健康づくりをしてポイントを集めよう!
- 3 集めたポイントを温泉無料利用券などに交換しよう!

smart wellness CITY